

本能まちづくりニュース

第12号 平成14年3月19日発行

本能まちづくり委員会
委員長 西嶋直和

第1回 京都まちづくり交流博 開催

2月17日、(財)京都市景観・まちづくりセンター主催の第1回「京都まちづくり交流博」が、キャンパスプラザ京都(下京区西洞院通塩小路下)で開催されました。この交流博は、まちづくりにかかわる様々な人々・情報が交流し、新しい出会いの場となることを目指すものです。当日朝から、展示会場では、67組の団体・企業が、取り組んでいるまちづくりの事例や提案、夢や理想をパネルで発表しました。本能まちづくり委員会は、中村副委員長が中心となって現在に至るまでのまちづくりの活動をまとめ、写真を交えて紹介しました。本能パネルの前で足を止めて、委員の説明を求める見学者の姿も見られました。

午後は、先ず、京都府立大学助教授宗田好史氏の基調講演「パートナーシップのまちづくりとは」で、「住民参加のまちづくりとは、ひとりひとりの思いを大切にし、それを形にする環境をつくることだ」と説かれました。

その後、3つの部会に分かれての、まちづくりパネルディスカッション。Ⅰ「響きあう、まちづくりへの想い」では、「あちこちで、様々な主体による催しが開かれているが、これらをインターネットでみてはどうか」と提案され、Ⅱ「ともに拓く、企業活動とまちづくり」では、当委員会委員長西嶋直和氏がパネラーとして参加、提言。Ⅲ「つなげよう、まちづくりの情報」では、「住民がITでつながり、暮らしに関わる情報がいつでも得られることは、安心感を生み、町の住みよさをもたらす。」との報告がありました。



パネルディスカッション風景



公園感謝日風景

公園感謝日にあたって

3月の声の聞こえる2月24日(日)は好天にめぐまれ暖かい日でした。本能公園は、平成11年春に開園して、3周年を迎えました。感謝の会と、まちづくり委員会活動の一端として、学区の方々の交流となる催しを開きました。

自治連合会長様はじめ、八坂婦人会様、平安婦人会様、消防分団員様、少年補導委員会様、他多数のご協力をいただきまして、有意義な半日を送れました。お礼申し上げ

ます。幼いお子様、小学生の皆様、お町内の方々300人程のご来場、ご参加をいただきありがとうございました。

又、催し中に不行き届きがありましたら、ご容赦いただきますようお願いいたします。公園では、サザンカは終わりましたが、芝生も芽吹きます。ヤブ椿、ゆきやなぎ、藤など四季折々の花が咲き、緑多き公園になります。

いつでも公園にご来場いただき、おくつろぎされる様、お待ちしております。

(本能公園愛護協力会 富田)



本能公園のできごと

3月1日、堀川高等学校卒業式のあと、メッセージと共に花束が、公園の藤棚下のベンチに置いてありました。

当日の来場者は約500人。雨にもかかわらず盛況で、まちづくりへの関心の深さと熱気を感じました。

本能まちづくり委員会西嶋直和委員長の談

部会場には、約50名の参加があり、活発な意見交換ができました。まちづくりと企業活動の接点は、「地域に個性を活用し、高めること」「地域の活性化に寄与すること」であり、「両者の連携は継続的なまちづくりをする上で必要となる」と、いうことを共有しました。

本能まちづくり委員会の次回開催日

平成14年4月1日(月)午後7時より

ばしょ: 本能会議室 小川通錦小路上ル

当日飛び入り大歓迎

同志社大生のための公開工房実施

2月23日(土)、フィールドワークという方法で、京都の職人と町に焦点を当てて研究活動を行っている同志社大学経済学部西村卓ゼミナールの要請で、ご協力



いただいた勝山引染工芸・中東盛染工場・金彩松本・安藤染色補正・鹿島紋章工芸の5軒の工房見学会を行いました。

当日、午後2時に、同大ゼミ2回生22名が本能会議室に集合。西嶋委員長の京染め生産工程の解説を受けた後、2グループに分かれ、本能まち

づくり委員の案内で、5工房を、予定時間オーバーの約2時間半かけて、熱心に見学して回りました。初めての若いお客さんには委員も戸惑いましたが、実り多き見学会になったようです。公開して下さった工房の皆様、ありがとうございました。学生さん達に感想を寄せていただきました。以下にご紹介します。



本能学区「公開工房」に参加して
同志社大学経済学部西村卓ゼミナール（演習A）

私たちのゼミナールはテーマを「市井の人々と近代日本」とし、特に最近では、京都の町を中心とした「職人の世界」に焦点を当てつつ、京都の町の過去・現在・未来を見通しています。結髪、京弓、藍染、京三味線など様々な職人に寄り添い、彼らのライフストーリーを聞き取りながら、これからの「らしい」京都のあり方を探り出せればとも考えています。

今回、本能まちづくり委員会の皆様方のコーディネートで、当演習の2回生20人ほどが、京都の「染」をめぐるネットワークを見聞できたことは、今後彼らが研究のためのフィールドワークをする場合の大きな礎となったと思います。いな、この「染」のネットワークが彼らのフィールドになるかもしれません。本当にありがとうございました。以下に学生の参加記を掲載します。（西村）

職人さん達はみんなお仕事の話になると生き生きとして「自分しかこの仕事は出来ない」というように自分の仕事に絶対の自信と誇りを持っていると実感しました。着物を普段着にというお話をされていましたが、様々な民族衣装的な服が売られているなか、着物もアレンジして売り出したら面白いのではないかと思います。着物というとはやはり高価で特別という思いが多

いのですが、気軽に買やすい小物やバッグに着物の生地を使った商品だったら実際私も持っているのですが馴染みやすいと思います。職人さん達は長年培ってきた自分の手の感覚だけで色を塗ったり家紋を書いたりしてとても作品1つ1つに暖かみがあって、それを多くの人が知らないのはとても残念だと思います。（米田直末）



公開工房を見学して私は、初めて生活の地盤としての京都を見た実感しました。私は関東出身で京都をほとんど知らず、同志社大学での生活も京田辺市で過ごしてきたので、京都市というと祇園や寺院といったものをイメージしていました。しかし今日の公開工房見学でハレとケで言う、ケのイメージを得ました。熟練した職人に

よる京染め産業の技術や、専門職の地域密着型がもたらす相乗効果と言った京都の生活に、私は非常に驚きました。しかし、多くの職人さんが和装産業の活力低下を訴えており、将来の見通しは決して明るいものではないことを痛感します。私自身は京染めの技術はもう完成された段階であると思ひ、後は新しいニーズの開拓が次世代に求められているのではと感じました。（山作政嗣）

京都に住んでいながら本能学区に足を踏み入れるのは初めてでした。町のなかを歩いていると、どこの通りにも必ずといっていいほど京染めに関わる職業の看板が見られました。その中のいくつかの工房を見学し、職人の方のお話を伺いました。町にしっかりと息づく職人の技・1つ1つの言葉に滲み出る職人としての誇り、それらを肌で感じる事ができ公開工房に参加してよかったと思っています。しかしこの本能学区でも、最近の着物需要の冷え込みにより京染めを仕事とする人が減ってきているということで、文化と産業の両立という大きな課題を改めて考えさせられました。町の人の取り組みも含めて今後も本能学区に注目したいと思います。（碓井マリ子）

本能学区地区計画(案)についてのアンケート調査 ご協力をお願い

このたび、よりよい本能学区をつくっていくため、本能学区地区計画（案）についてのアンケート調査を実施します。

- 地区計画(案)についての全学区民対象説明会を **3月25日(月)19:30** から本能会議室(小川通錦小路上がる 元本能小学校学校園跡地に仮設)にて開催します。
- 返送の締切日 **3月28日(木)着**

本調査につきまして、ご質問等がございましたら、西嶋（本能まちづくり委員会委員長・藤西町、電話 221-6826）までお問い合わせください。

編集後記 元本能小学校が工事囲いされています。内では、解体工事が始まっています。6月頃までかかるようです。解体工事中でも、玄関にあった桜の花は咲くのでしょうか。最後の1花を咲かせてほしいと思います。

本能まちづくりニュースも、早いもので12号を数えるようになりました。今、若い力を必要としています。ぜひお手伝いください。 M.O